

I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成20年7月～平成25年3月(4年9月)

1. 概況

岐阜県中津川市の中心市街地活性化基本計画においては、市と商工会議所、商店街振興組合が同じ方向性・目的をもって協働で事業を推進していくことを基本に、中心市街地活性化協議会の構成員を中心とした事業別委員による事業部会を随時開催、定期的な事務局会議等を開催して情報共有を密接にし、事業実施に努めています。

市の実施するハード事業は各担当部署が実施しており、商工会議所や商店街が主体となって実施するソフト事業についても、取り組みの進捗状況は概ね予定どおり、それぞれの目標値達成に向かって邁進しています。特に、「中山道中津川宿六斎市」事業は、かつて江戸時代に開かれていた「市」の復活として毎月第1日曜日に定期的で開催し、中心市街地への入り込み客を増加（平成22年度において六斎市のみ年間入り込み客数125,000人）させているのみでなく、「おもてなし事業」、「個店強化事業」、「まちなか緑化事業」などと組み合わせて行っており、商店街、地域の関係者の「やるき・本気・元気！」の向上につながっています。

計画事業33のうち、完了4事業、実施中26事業、未着手3事業となっており、進捗状況は概ね良好です。

平成23年度は、計画期間の後半が始まる年であり、各事業を着実に推進することを重要課題ととらえ、新規事業の確実な着手、継続事業の進捗管理を行ってきました。今後も引き続き関係者との連携を図りながら、地域全体としての魅力の向上のための景観や市街地の形成などを行い、多くの来訪者を迎え入れ、にぎわいとおもてなしの心で魅力ある商店街を形成して、中心市街地の活性化を図り「愛され、選ばれる中津川市」を目指します。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
自らが誇れるまちの創出	観光客入込数	324,300人 (H18)	360,000人	313,300人	①	①
快適に暮らすことのできる市街地の形成	中心市街地居住人口	3,310人 (H19)	3,400人	3,158人	④	④
商業活性化の推進	中心市街地歩行者数	4,056人 (H19)	4,630人	4,647人	①	①
	商店街店舗数	130店舗 (H19)	135店舗	130店舗	③	③

注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

- ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

- ・「観光客入り込み数」については、「中山道中津川宿六斎市」、春・秋の「中山道まつり」といった集客力の高いイベントについて、悪天候が続いたために来場者数が伸びず、入り込み数に大きく影響しました。また、一部を一般公開してきた旧中津川村庄屋肥田家は平成22年以降、本格的な改修や継続的な公開が困難な状況となっており、今後の協議が必要です。さらに、「イルミネーション IN 中津川」は、東日本大震災以来の電力供給量の減少に配慮して一部のイベントを除いて自粛することとなったため、来訪者数は大幅に減少しました。以上の要因等により、平成23年度は平成22年度と比較して、観光客入り込み数は大幅に減少する見込みです。平成24年度はさらに積極的なイベント開催を展開し、目標達成を目指します。
- ・「居住人口」については、旧ユニー跡地開発事業(共同住宅を含む複合ビル整備)の計画が平成21年度に中止となり、新図書館建設事業に変更になったことにより当初計画の居住人口の増加は見込めなくなりました。民間の事業者等に、中心市街地内への共同住宅の整備計画等についてヒアリングを行いました但起工案件がなく、事業を立ち上げる見込みはたっていないため、目標達成は見込まれません。居住人口の減少は、中心市街地だけでなく全市的な課題であるため、定住推進部を設置して、中津川市全体として人口減少を食い止める事業を検討・推進しています。
- ・「歩行者数」については、平成23年度の数値は平成22年度より増加しており、目標数値を上回りました。しかし、平成21年度と比較すると減少するなど数値の推移が不安定であるため、もてなしの精神を高揚して、西太田町通り路面整備事業、新図書館建設事業等によりまちなかの回遊性を高め、目標達成のみでなく、高水準で安定した歩行者数の継続を目指します。
- ・「商業店舗数」については、平成21年度に、商業店舗数の減少傾向に歯止めがかかり、微増傾向となっています。引き続きソフト事業等に重点を置いて、地域、商店街が「おもてなしの心」で誘客に取り組むとともに、新たな事業展開によって商店街の求心力を向上させることにより、目標達成は可能であると見込まれます。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

- ・なし

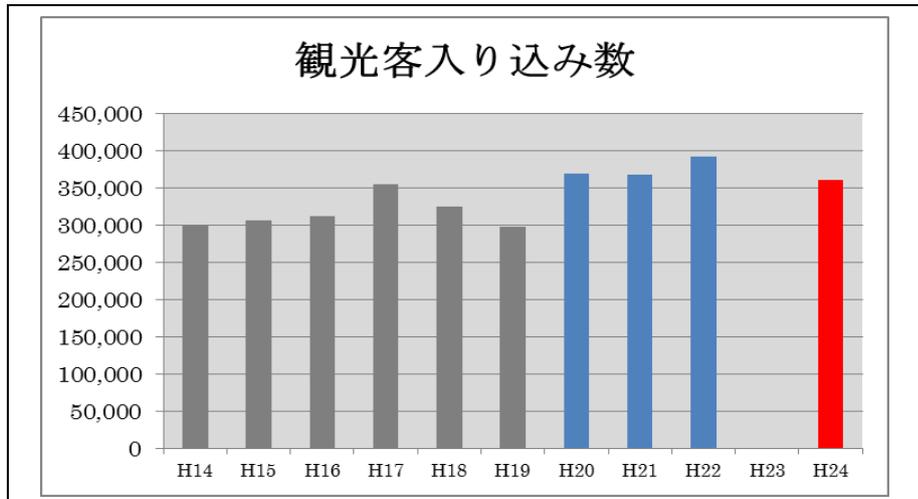
5. 今後の対策

- ・事業については、中津川市中心市街地活性化基本計画の中核となる「旧ユニー跡地開発事業(新図書館建設事業)の実施により、図書館の集客力を中心市街地全体に波及させ、回遊させる仕組みを構築することにより、にぎわい再生を実現できると考えられます。
- ・今後、達成が困難と見込まれる目標に係る事業については、担当部局及び関係団体と既存事業の強化、新規事業の構築に向けて検討し、目標数値達成に向けて事業の実行に努めます。
- ・中心市街地活性化基本計画の取り組みを継続して地道に展開していくことが市全体の活性化につながるのとのお考えのもと、今後も身の丈にあった事業の推進に向けて、官民協働で事業を展開し、中津川市の顔である中心市街地ににぎわいを取り戻し、「平成の中山道中津川宿の創造」を目指します。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「自らが誇れるまちの創出」

「観光客入り込み数」※目標設定の考え方基本計画 P44～P46 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	324,300 (基準年値)
H19	297,600
H20	369,300
H21	368,300
H22	392,300
H23	313,300
H24	360,000 (標値)

※調査方法；中心市街地内の公開施設及び各イベント等への入り込み客数の年間合計数

※調査月；毎年3月末

※調査主体；中津川市

※調査対象；「春・秋の中山道まつり」・「イルミネーションIN中津川」・「春・秋のJRさわやかウォーキング」
 ・「ウインドギャラリー展」・「おいでん祭」・「ギオンパジャナボリー」・「西宮神社例祭、十日えびす」
 ・「中山道歴史資料館」・「旧脇本陣森家」・「旧中津川村庄屋肥田家」・「中山道中津川宿六斎市」

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. イルミネーションIN中津川（ウィンターフェスティバル実行委員会）

事業完了時期	【実施中】平成17年度～
事業概要	中心市街地内の公園をメイン会場に、11月から1月まで中心市街地を約7万個のイルミネーションで飾るイベントである。また開催期間中にクリスマスライブコンサートを開催するなど市民参加型のイベントとして開催している。
事業効果又は進捗状況	平成21年以降、装飾範囲や開催期間を拡大しながら実施してきており、市内外からの来訪者を増加させてきたが、平成23年度は東日本大震災に伴う社会経済情勢の変化に配慮してクリスマスライブコンサートを除いて自粛となり、来場者数は大幅に減少した。

②. 旧中津川村庄屋肥田家保存公開事業（中津川市）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	旧中津川村庄屋肥田家を一般に公開することを計画する。
事業効果又は進捗状況	中山道中津川宿における肥田家は歴史的・文化的に最も価値の高い建築物なので地権者との話し合いの結果、一部公開が可能となり、平成21年度まで観光客を集客することができた。しかし、平成22年度以降は、所有者（地権者）の事情により継続的な公開は困難となっているが、土地・建物の取得を視野に入れて今後も協議していく必要がある。

③. 中山道中津川宿六斎市事業（六斎市実行委員会）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	江戸時代の復刻版「六斎市」として、中心市街地内で特産品の販売や、地産地消の「おはよう朝市」、各商店での特売やタイムサービス、出店者による物産展、郷土芸能披露や各種イベントに加えて情報提供の場としての活用など、人・物・情報の総合的な「市」として開催している。
事業効果又は進捗状況	六斎市には毎月市内外から1万人程度の来場実績があるが、来場者の増減は天候に左右される要素が大きく、平成 23 年度は、悪天候が重なって来場者数は大幅に減少した。この事業は、定期的な「市」として市民等に定着しており、各種ソフト事業との組み合わせによる相乗効果も高く、今後もこの「市」をさらに広く市民等に定着させ、中心市街地への来訪者を増加させ、にぎわいの創出を図る。

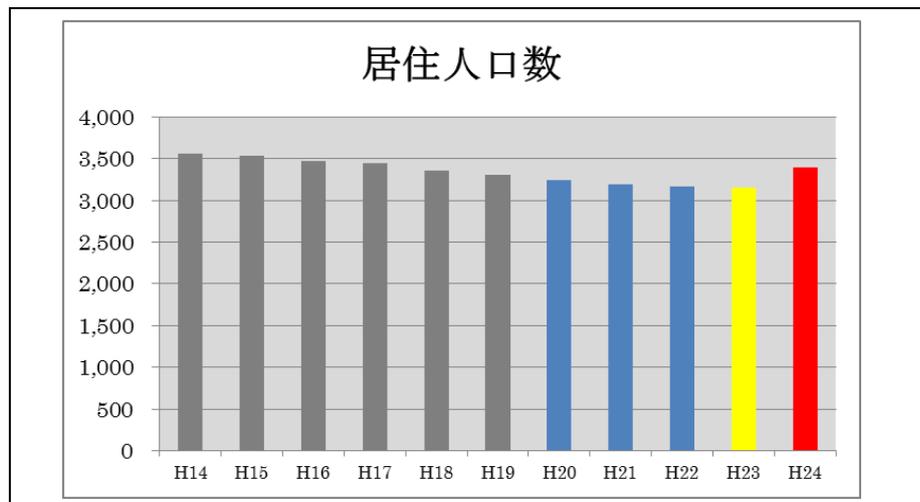
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・「観光客入り込み数」の数値については、平成22年度は目標値を達成したが、平成23年度は荒天による「六斎市」来場者の減少等により目標達成できなかったが、今後は周辺地域(市町村合併前の旧町村部)の参加を促進して集客の範囲を拡大して交流人口の増加を図り、中心市街地の活性化を目指す。
- ・「イルミネーション IN 中津川」は平成 17 年から開催しているが、平成 21 年度以降、電飾の工夫や範囲の拡大、クリスマスライブコンサートの開催など、年々新しい企画を盛り込みつつあり、新たな誘客を図っている。平成23年度は東日本大震災に伴う社会経済情勢の変化に配慮し大幅に自粛してコンサートのみの開催となったため、目標達成に寄与できなかったが、今後は再開できるよう支援していく。
- ・これらの事業の集客力を高めることにより、目標達成は可能と見込まれる。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「快適に暮らすことのできる市街地の形成」

「居住人口数」※目標設定の考え方基本計画 P47～P48 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H19	3,310 (基準年値)
H20	3,270
H21	3,189
H22	3,167
H23	3,158
H24	3,400 (目標値)

※調査方法；

※調査月；毎年4月1日

※調査主体；中津川市

※調査対象；住民基本台帳による中心市街地区域内の人口数

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地共同住宅供給事業（中津川市）

事業完了時期	【未】平成21年度～平成24年度
事業概要	民間事業者が共同住宅を建設する場合に支援を行う制度を創設し運用する。
事業効果又は進捗状況	民間事業者が共同住宅を中心市街地に供給することにより、人口の増加と歩行者数の増加、さらには、その居住者による中心市街地での購買行動の増加が期待される。 しかし、当初計画されていた民間事業者による共同住宅を含む複合ビル建設事業計画が中止になったうえ、さらに追い打ちをかけるような経済情勢の悪化は市の財政状況にも影響し、支援制度の創設ができない状況にある。

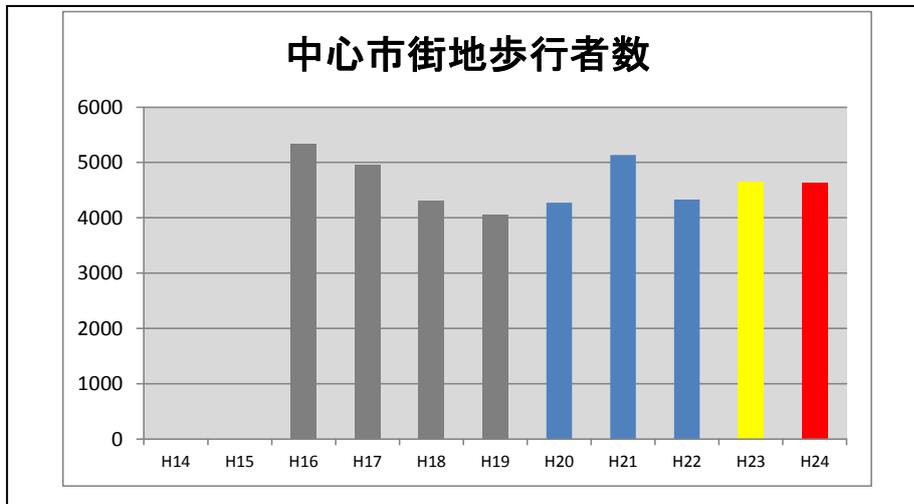
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・当初の計画であった複合ビルの建設計画が中止となったため、当市における共同住宅供給事業の制度創設を見合わせている。
- ・中心市街地内の空き家情報の収集、空き家を活用したまちなか居住の可能性を探る取り組み等を現在検討中だが、昨今の経済情勢の悪化により、この事業についての目標達成は困難を極めている。
- ・この目標値に係る事業については、新たな施策を構築する必要があるが、人口減少は中心市街地のみのものでない問題ではないので、定住人口の増加を図る部署を平成23年度に新設して中津川市全体として、人口減少を食い止める事業を検討している。

II. 目標毎のフォローアップ結果「商業活性化の推進」

「中心市街地歩行者数」※目標設定の考え方基本計画 P48～P51 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H19	4,056 (基準年値)
H20	4,273
H21	5,137
H22	4,329
H23	4,647
H24	4,630 (目標値)

※調査方法；実質測定値

※調査月；毎年9月末（平日）

※調査主体；中津川市

※調査対象；中心市街地内指定の5ヶ所での歩行者数

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 市営駐車場改修事業（中津川市）

事業完了時期	【済】平成21年度
事業概要	建設後30年の自走式立体駐車場の耐震補強やリニューアルを実施する。
事業効果又は進捗状況	平成21年度耐震補強及びリニューアル工事を実施し、安全で利用しやすい駐車場として整備が完了した。平成22年度と比較すると、1か月あたりの利用台数は増加しており、中心市街地への来訪者の増加に寄与していると考えられる。

②. 旧ユニ一跡地開発事業（新図書館建設事業）（中津川市）

事業完了時期	【実施中】平成21年度から平成24年度
事業概要	学習支援機能の充実による滞在型の図書館を整備する。
事業効果又は進捗状況	集客力の高い図書館を中山道筋に整備することにより、他の事業との相乗効果により、まちなかの回遊性を高め、周辺商店街等への波及効果を発揮し、新しい「まちの顔」として中心市街地のにぎわい創出を図る。 平成23年度は、設計を完了し、9月に着工した。

③. 「にぎわいプラザ」利活用促進事業（中津川市）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	駅前に立地する「にぎわいプラザ」を、まちなかの回遊性を向上させるための拠点とするため、より多くの市民や観光客の利用促進を図る。
事業効果又は進捗状況	「中津川市にぎわいプラザにぎわいアップ検討委員会」を定期的に開催し、各階ごとの活用等、利活用促進の方策について検討している。平成23年度は、1階に

	観光交流センターを整備し、コミュニティホールを移設した。また、平成 22 年度に設置した「コミュニティオフィス」の入居者選考にあたり、利用者の増加につながる団体の入居を審査した。 今後も、他の階の利用方法の見直し・検討を行なって利活用を促進させ、中心市街地の活性化を図る。
--	---

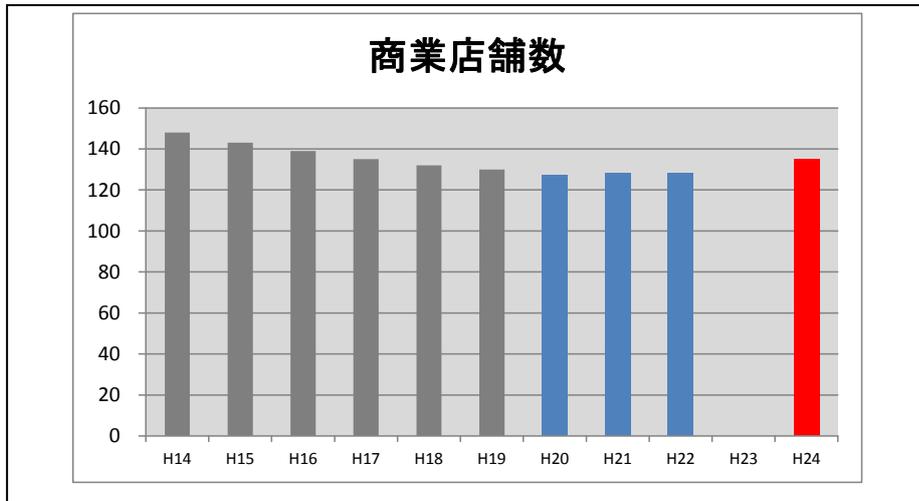
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- 中津川市のまちなかに立地する市営駐車場を平成21年度に耐震補強及びリニューアルし、利用料金を最初の2時間無料として商店街利用者の利便を図っている。また、商店街を中心として「花かざり運動」、「おもてなし運動」、「一店逸品フェア」等の実施による効果により、商店街の歩行者が徐々に増加しており、目標を達成しているが、今後も高水準の数値を維持することが必要である。
- 今後もこれらの事業に付加価値を付して展開し、中心市街地ににぎわいの創出を図っていく。

II. 目標毎のフォローアップ結果「商業活性化の推進」

「商業店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P51～P53 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：店)
H19	130 (基準年値)
H20	127
H21	128
H22	128
H23	130
H24	135 (目標値)

※調査方法； 中心市街地内の 4 振興組合と 4 発展会より調査書の提出

※調査月； 毎年 3 月末

※調査主体； 中津川市・中津川商工会議所

※調査対象； 中心市街地内の 4 振興組合と 4 発展会の商業店舗数

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗対策事業（中津川商工会議所・中津川市商業振興連盟）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	商店街にある空き店舗情報を一元管理し、ホームページ等で外部に対しPRするとともに、各商店街の空き店舗における商店街のコンセプトにマッチした事業者の募集、若者等のチャレンジショップに対する店舗改修・店舗賃借料等の支援により、商店の誘致を図る。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年度実施した空き家及び空き店舗調査結果をデータベース化し、不動産会社とも連携して、インターネット等による情報提供方策を検討している。 平成23年9月、西太田町通り商店街の空き店舗を利用して「まちなかステーション『ねこのて』」が開設され、まちなかの子育て支援の中核施設として機能している。

②. 流通ポイント事業（中津川市商業協同組合）

事業完了時期	【未】平成22年度
事業概要	中津川市共通商品券と商品購入等に添付するポイント制度を融合し、ボランティア活動や公共施設の利用料金等におけるポイントの付与や支払い等を検討し、商店街での積極的な活用を構築する。
事業効果又は進捗状況	中心市街地の各商店街での購買活動が活発となることで、商店街のにぎわいが再生し、販売額が増加することから、商店数の増加を図ることができる事業として計画案を提示したが、昨今のポイント制度の運営問題や地域性、区域、予算等の関係で商店街として取り組む意欲は薄く、事業構築ができていない。 今後は、他市のポイント制度の情勢等を見極めて、再度検討を行う。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- 「商業店舗数」については、新図書館の建設により「新図書館」、「にぎわいプラザ」、「中央公民館」の三拠点での回遊を図るとともに、新図書館利用者の足を商店街へ向けさせる新しい事業展開も検討して商店街の求心力を向上する。また、空き店舗情報の提供によって新規参入を促進するとともに、個店強化事業により既存商業者の魅力を向上して体力をつけることにより、目標達成が見込まれる。
- 「流通ポイント事業」については、中部経済産業局にも相談して指導や情報をいただいているが、全市の商業者が一体となることができる方策を探る必要がある。
- 市が交付する補助金とポイント制の融合、他の自治体・商店街等で実施されているポイント制度や地域通貨制度について研究し、応用の可否について検討している。